学 校 自 己 評 価 表

学校法人セムイ学園　東海医療科学専門学校

評価対象期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

臨床工学科・理学療法科・作業療法科・柔道整復科・言語聴覚科・社会福祉科（昼間課程）

目　　次

基準1　教育理念・目的・育成人材像等・・・1

基準2　学校運営　・・・・・・・・・・・・・2

基準3　教育活動　・・・・・・・・・・・・・3

基準4　学修成果　・・・・・・・・・・・・4

基準5　学生支援　・・・・・・・・・・・・・11

基準6　教育環境　・・・・・・・・・・・・16

基準7　学生の募集と受け入れ・・・・17

基準8　財務・・・・・・・・・・・・・18

基準9　法令等の遵守・・・・・・・・・19

基準10　社会貢献・・・・・・・・・・・20

基準１　教育理念・目的・育成人材像

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法
1-1	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められ、実現するための具体的な計画・方法を持っているか	4	【学生の手引き】 セムイ学園の精神、特性をスチューデントマニュアルに掲載し、新入生オリエンテーションにて通学過程の全学科に説明。 【校長講話】 １．セムイ学習法 ２．ストレス・マネジメント ３．リベラルアーツ　世界史の中の日本 【特性】 朝礼時に音読を実施し、あるべき教育者像を周知している。 【セムイ体操】 朝礼時にセムイ体操を実施し、居眠り防止のために授業中にも実施。
1-2	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	3	【教育目標】 学科毎にホームページ上で教育目標などを掲載し人材育成に取り組んでいる。 【業界のニーズへの対応】 教員は各職能団体、学校協会の研修、学術研修に積極的に参加して最新の情報、技術を入手して求められる人材育成に取り組んでいる。
1-3	理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	4	教職員にはスチューデントマニュアルを配布しており、学外にはホームページ上で公表している。
［評価］※　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠資料・学校案内 2017、2018 ・東海医療科学専門学校ホームページ　http//www.tokai-med.ac.jp/kagaku/ ・平成 29、30 年度スチューデントマニュアル

基準２　学校運営

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
2-1	人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3	整備されている。就業規則、諸規定は、学内サーバーの共有フォルダに保存されており、教職員が閲覧可能となっている。
2-2	学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められており、学校は事業計画に沿って運営されているか	3	事業計画については、各校及び法人本部で作成し、評議員会及び理事会で意思決定されている。10月に事業計画の中間報告を行い、事業計画の進捗状況などについて報告と協議を行っている。
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	運営組織は、組織図において明示している。法人全体の重要事項については、理事会・評議員会が組織され、意思決定を行っている。また、毎月経営会議を開催し、学校経営に係る事項や不定期に発生する重要事項について、意思決定がなされている。
2-4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動等の情報公開については、文部科学省の定めるガイドラインに基づき、学園のホームページにおいて情報公開に取り組んでいる。
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	サイボウズofficeを導入し、情報の可視化と共有、 業務の効率化を図っている
［評価］※　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠資料

・セムイ学園ホームページ　http//www.tokai-med.ac.jp

・H30年度　セムイ学園　事業報告書、平成31年度事業計画書

基準３　教育活動

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	セムイ学園の精神をスチューデントマニュアルに掲載し、新入生オリエンテーションにて通学過程の全学科に説明。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成員会を実施（2回/年） 学校評価委員会（1回/年）
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	3	各学科ともに概ね科目、年次配当は妥当であるが、指定規則の改正に伴い理学療法科、作業療法科では準備を進めている。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか	3	各学科ともに概ね科目、年次配当は妥当であるが、学校内で時間数が整っていない学科もあるため調整して変更することも検討している。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	校内での基準に沿って実施している。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	4	校内での基準に沿って実施している。
3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3	専門職団体主催の教員研修に応募したが（理学療法科1名、作業療法科1名）2名とも選考にもれたため受講できていない。 愛専各主催の教員研修を受講。 サブノート委員会を1回／月実施して、平成31年度より使用できるよう準備を進めた。 シラバス委員会を行いシラバスにGIOとSBOsを記載した。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	各期終了時に各クラス単位で実施。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	3	評価が低い場合には各学科長より面談等を実施。 非常勤講師で学科長からお願いしにくい場合は、教学部が対応。

3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	3	職業教育であるため資格取得が前提である。 教員は全員が国家試験経験者であるが、学習方法に多少の違いはあるが、概ね教員がチューターとなりサポートしている。 また、各学科とも毎年バージョンアップをしている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠となる規定、資料等

・平成29、30年度スチューデントマニュアル

基準４　学修成果

・教学部

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	就職率においては国家試験に合格することで内定していただけるが、生徒の希望する分野、地域にできる限り近づけられるようキャリアサポートと教員が一丸となって対応している。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	学科によっては教職員と同様に担任が3回/年PDCAを使用して面談を行っている。 また、ホームルームなどで担任が変化に気づいたときは速やかに面談を実施。 言語聴覚科の退学率が０％であったため、平均が8.4%から5.0%に軽減した。 【平成 30 年度退学率】 臨床工学科　9%（6.4%）↗

			理学療法科　9%（9.1%）↗ 作業療法科　6%（2.7%）↗ 柔道整復科　5%（12%）↘ 言語聴覚科　0%（11.8%）↘ 社会福祉科　8% 科学校平均　5%（8.4%）↘
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	3	国家試験合格率は概ね全国平均値を上回っている。 各学科において方法に違いはあるが、グループワークなどを取り入れて知識の整理を行う。 また個別指導を取り入れている学科もある。

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	臨床実習先や卒業生からの情報を共有し就職活動サポートの１つとしている。就職活動は基本担任が取りまとめを行うが学科教員全員でサポートを実施。しかし、5月1日時点で全員が就職内定を取ることが出来ていない。
4-2	中退率の低減が図られているか	2	基礎学力の向上と授業の理解度を深めるため、授業後に補習（特に工学系を中心に）を毎週実施し、基礎学力の底上げを行っている。 また、学生の面談も一昨年よりも機会を増やし対応したが、中退率の低減は思うようになっていない。

4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	一昨年以上に授業後の補習を実施。また、学内教員でも役割分担を行い成績の底上げを行った第31回臨床工学技士国家試験の合格率が100%であった（37名全員卒業)。

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	成績良好な学生に対しては早い時期から就職活動するように促している。 成績がおもわしくない学生に関しては、生徒への学習支援（個別指導等）を行い、成績向上後に就職活動を随時解禁している。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	平成29年度退学者17名/209名（8.1%） 平成30年度退学者19名/209名（9.0%） 各担任が面談を行い、学生の様子をこまめにチェックしている。 来年度より1年次生の進級についても新内規に則った基準を設け、適正な学生募集により中退率低減を目指す。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	2	昨年度同様グループワーク中心に進めてきたが、合格率は全国を下回る結果となった。これを踏まえ来年度は特別授業を各教員が行い、1・2年生対象の国家試験ゼミを導入することで合格率向上を目指す。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	キャリアサポートセンターと協力し、2年次・3年次にそれぞれ就職指導の講義を行った。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	新年度入学者に対して、入学3か月前から月1回（全3回）「入学前学習会」を開催し、入学後に3年間を共に過ごす学生との交流を図った。また、「リフレッシュ授業」としてGWと夏休みの長期休暇明けに、遠足などのレクリエーションを行い、モチベーションの維持を図った。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	3	合格率は78.1％であり、全国平均も上回った。（71.6％） 今年度は全国的に合格率が低下し、問題の適切さも問題となった。 合格者数は東海3県の専門学校の中では一番多い数を維持している。

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	30 年度もキャリアサポート（学生支援課）による就活講座を行い夏休み前から施設見学や就職に向けた取り組みを続けている。今年度この取り組みにより柔道整復に理解のある県外の整形外科から内定をもらうことが出来た。学力に不安のある学生については国試後に就活に動き出していたが、国対学習を優先した結果であり今後もみられると考えている。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	学業不振、欠席の多い学生には担任教員による指導、三者面談等行い、中退防止に努めている。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	3	国家試験の難易度が上がったか、合格率は、全国平均を上回ることができた。国試対策について改善を行いながら進め、今後も結果が伴っていくよう努めたい。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	キャリアサポートセンターによる講習会を開催して就職活動をバックアップしている。学科教員とキャリアサポートセンターが連携し、就職活動をサポートしていく。
4-2	中退率の低減が図られているか	4	1年生は全員進級、2年生は全員卒業した。意欲的で意識 高い学生が多く、教員も学生の学校での態度には気を配っており、中退率は低減している。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	継続して、過去のデータ分析から今の成績での国家試験合格率、科目別正答率を出し、合格ラインと苦手科目を意識させるようにしている。

・社会福祉科（昼間課程）

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	多様な社会福祉実践の現場を体感し、リアルなイメージが持てるように、パートナーシップ協定を締結した法人をはじめ、学生の要望も踏まえた見学実習を、学校の教育活動にできる限り取り入れている。 また、現場で活躍する卒業生等によるゲスト講義も実施し、3年後、5年後、10年後の自分の生き方の参考にする。
4-2	中退率の低減が図られているか	4	長期欠席者に対して、担任による状況確認を定期的に実施している。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	国家試験の合格率について、平成29年度は80%であったが、平成30年度は100%に向上した。

基準５　学生支援

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリアサポートセンターと随時連携をとりながら就職試験対策の実施ができている。また、履歴書の添削、面接練習においては学内教員でも行い学生の就職サポートに努めた。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	出席状況がよくない場合など、保護者に連絡が必要な場合は随時連絡している。また年1回の保護者会を実施し学校生活の報告を行っている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	国家試験に不合格であった学生に対しては授業に参加させる聴講制度を実施。 また、就職先でのトラブルや悩みがあった場合、学校での面談や就職の斡旋を実施している。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	非常勤講師とも連携をとり、~~問題あ~~る支援が必要な学生を早期に把握。時間のある教員は、授業後に各科目の補習を実施している（個別指導）。また生活指導においての面談はほぼ毎日時間が許す限り実施中。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリア講習だけでなく各学生の希望分野への支援を全教員で行っている
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	出席状況がよくない場合など保護者に連絡が必要な場合は随時担任が連絡をしている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	同窓会主催の勉強会を3回/年行った。 また転職等の相談は随時行っている
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	欠課、欠席が目立つ学生や成績が思わしくない学生への指導は随時担任より行われ、改善ない場合は学科主事による面談も行っている

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリアサポートセンターと連携し、情報提供・就職指導・試験・面接の練習等を行った。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	年に2回（5月・10月）に3学年で保護者会を行った。学年ごとの分科会や保護者との個人面談を行って情報交換を行った。また、必要に応じて保護者に学校に来てもらっての面談も行った。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	同窓会を組織しており、年4回の卒業生を対象とした卒後教育勉強会を行った。また、転職などの相談には適宜乗るようにしてあり、求人情報の提供を行っている。

5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	担任を中心にクラス運営を行い、授業態度・生活態度の指導を行った。心配な学生には面談を実施し、必要に応じて保護者を呼んでいる。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	柔道整復科は例年一部の学生（特に社会人学生）は就職先が決まっており就活をする必要のない状態の学生がいる。半面就職希望の学生も多くキャリアサポートセンター（教務・学生支援課）と連携しながら、就職先、学生と就職先の間に入り連絡を取りながら、高い就職率を目指し、支援している。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	欠席が多い学生、再試験が多い学生について面談指導が再三なされており、適宜保護者への連絡、三者面談など行い学業に専念できるよう対応している。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	資格取得者の卒後研修が定期的に行われている。資格未修得の卒業生には聴講制度、国試対策、受験支援を行っている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	欠席が多い学生、再試験が多い学生については教員による生活面、学習面での面談指導が行われている。保護者への連絡を行い、三者面談など適宜行い学業に専念できるよう対応している。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	臨床実習のスケジュールがそれぞれであるため、個人のスケジュールで活動している。特別に依頼があった時にはメールを使って情報提供をしている。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	基本は本人との話し合いによるが、必要に応じて保護者に連絡をしている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	3	卒後研修では場所を提供している。就職、国家試験対策等、情報提供ができる体制になっている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	履修状況、出席状況により、指導が必要な学生については、欠席、遅刻、提出物、成績等の状況を教員全員で共有している。 学生相談室を利用してリスク軽減も図っている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・社会福祉科（昼間課程）

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	整備されている。担任による個別支援を行っている。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	3	必要のある範囲で行っている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生の希望により、個別支援を実施。また、年に一回卒業生との交流会を開催し、個別相談を行っている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	4年制大学新卒者～50代までの幅広い年代の学生がいるため、それぞれに応じた指導を行っている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・教務 学生支援課

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	教育訓練給付、年金の学生納付特例、勤労学生控除などの事務手続きについては不備なく処理されている。
5-2	奨学金等の管理はできているか	4	日本学生支援機構奨学金の事務手続きならびに管理については、不備なく処理されている。

5-3	保健室の管理、健康診断の実施等、学生の健康管理はできているか	4	健康診断は全校生徒に対して実施され、結果についても周知している。また保健室も適切に利用されている。
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。	4	週1回は学生相談室が開室され、適度に利用もされている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

基準６　教育環境

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
6-1	設備、機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	学科からの教育機器、機材購入要望書に基づいて、購入検討を行い、適宜の機具機材を購入し、設備の充実を図っている。
6-2	防災に対する体制は整備されているか	3	備蓄品の保管スペースの確保と、予算化を行い、緊急時の飲食料を１学年分確保した。備蓄充実を図っていく。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

基準7　学生の受け入れ募集

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか	4	グループ校を含め過去3年間に入学実績のある高等学校を中心に280校を指定校とし、指定校推薦入試の案内を行うとともに在校生の状況、卒業生の進路等の報告を行った。 また、資料請求などのあった入学実績のない高等学校へも随時訪問し情報提供を行っている。
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4	時代のニーズに沿った多様な入学試験を実施している。 ① AO入試は書類審査（エントリーシート）と個人面接により判定を行っている。 ② 学校推薦入試、指定校推薦入試、社会人入試、一般入試においては小論文の採点基準を設け明確化し、判定している。また、一般入試の学力試験は科目の選択が可能になっている。 ③ 留学生には留学生特別入試で対応している。 入学試験の合否決済については、学科長より校長へ決裁書の申請を行っている。
7-3	学生募集において資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	国家試験合格率、就職（内定）率などの情報はホームページやパンフレット等で情報提供を行っている。
7-4	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	近郊の競合校と比較して同程度になっている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠となる資料

・学校案内、サポートブック、募集要項、ホームページ

基準8　財務

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3	経費削減に取り組み、単年度黒字化を実現し中長期的に財務基盤の安定化を目指している。平成30年度は単年度、黒字化である。 学園の将来を考え、財務的な観点から中長期計画を策定し、将来への指針と成るべく資料を作成することを心掛ける。
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものか	3	予算計画は法人本部にて調整し評議員会、理事会にて承認され執行している。期中に執行状況を関連部に公開し経営層には学校学科ごとの収支状況の開示を実施する。
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による監査をほぼ毎月受け、適切な会計に努めている。 会計監査については、法人本部の所管で公認会計士による外部監査及び監事による財務監査を実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。 会計監査の往査は、平成30年度延べ20日実施した。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠資料

・平成30年度 事業活動収支計算書

基準9　法令等の遵守

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	養成施設自己点検表に基づき点検し、改善をしている。内部監査は本校職員の監査員4名と行政書士1名（学外者）で、6月と11月に教学に関する事項を重点的に行った。監査結果は理事会、評議員会で報告し、学内で問題点の共有、対応策を協議共有しコンプライアンスの徹底を図っている。
9-2	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	建学の理念・目的、教育および管理・運営内容の全般について、自己点検・評価を実施し、改善を図っている。
9-3	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	個人情報保護の基本方針として、情報セキュリティーポリシーを定め、情報セキュリティーを確保している。 個人データにアクセスする必要のある限られた人のみアクセスできる環境にし、誰がアクセスしたかを追跡できるようにログを残している。また、アクセスに必要なパスワードは、定期的に変更を行っている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

根拠資料

・H30年度　セムイ学園　事業報告書

基準10　社会貢献・地域貢献

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	NHKの番組にて透析療法の原理を知ってもらうため当校の設備を使用し放送された。また、高校への出張授業を行い医療への関心を持ってもらうよう活動を行った。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	現在、日本赤十字社による献血活動の普及を行っている。献血を広く知ってもらうため、授業後に献血センターの見学などを取り入れることで多くの学生の献血の協力がえられた。また、愛知県臨床工学技士会主催のイベントに対しても学生案内（募集）を行い、ボランティアスタッフとして参加した。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	文化祭時に、この地区の方を招待し体力測定や健康指導を行っている
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	各施設から依頼のあった夏祭り等のボランティアに積極的に学生を参加させている。 学科から依頼しているものは無い。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2.やや不適切　　1.不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	学科の教員が参加している勉強会の開催を当校を使用して行った。また同窓会と提携している勉強会・学会の開催をサポートした。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	精神科病院・老人保健施設・有料老人ホーム等の施設でお祭りや行事イベントにボランティアとして学生を送った。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2. やや不適切　　1. 不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	中・高生に対して柔道整復師の職場体験、説明を受け入れている。また教員が高校に出向き柔道整復師の仕事について紹介する取り組みも行っている。学校ジムにおいてオリンピック強化指定選手などのアスリートへの支援を行っている。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	高校などの部活に対して学生がボランティアでトレーナー活動に行くこともある。また学生によるジムトレーニングなどの活動も行っている。
［評価］　4:適切　　3：ほぼ適切　　2. やや不適切　　1. 不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	卒後研修の場として、学校を提供している。臨床実習のバイザーでもあるため、学生指導の勉強の場にもなっている。 言語・発達障害サポートルームひまわりが本格運営して1年、地域療育センターから紹介され来所するケースが増えている。すでに空き時間がない状況である。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	1年生が老健のボランティア活動に参加した。自主的に研修会に参加する学生もおり、少しずつ体験の機会という位置づけになりつつある。

・社会福祉科（昼間課程）

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	「パートナーシップ協定」によるスキルアップ支援として、本校の国家試験対策が受講できるなど、福祉を支える人材育成を始めとする社会貢献を行っている。 「私の合格が誰かの役に立つ」学生のモチベーション向上と、地域の福祉施設へ合格者数分の寄付を実施予定。 学校単位で「ヘルプマーク普及パートナーシップ制度」に賛同し、ポスター掲示などPR活動を行っている。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	実習施設をはじめ、地域の福祉施設等からのボランティア要請あれば、逐次学生にアナウンスしている。